

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書（2025年度助成者）

作成日 2025年8月16日

氏名（フリガナ）	齋藤 �瑛美里（サイトウ エミリ）
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日（月）～8月9日（土）
大学名 学年	徳島大学 5年

この度、Hawaii Tokai International College にて開催された医学部夏期集中医学研修に参加させていただきました。短い期間ではありましたが、英語での History Taking や Case Presentation の修練に加え、John A. Burns School of Medicine (JABSOM) や St. Luke's Clinic の見学など、得難い経験を数多くさせていただき、実り多き 1 週間となりました。以下に主な研修内容とその場で得た学びについて述べさせていただきます。

研修内容の大きな柱としては、History Taking、Case Presentation、そして Problem Based Learning discussions (PBL) の 3 つがありました。いずれも初めに Dr. Shon による概要の説明があり、次に参加者の学生同士で練習を重ね、最後に JABSOM の学生やハワイで活躍されている先生方を交えて実践するという形式で行われました。渡航前に医学英語に関する事前学習をしていたとはいえ、英語運用能力にあまり自信の持てなかつた自分にとって、このように段階を踏んで知識を蓄え、実践を重ねていく授業の形式は大変心強く感じました。

プログラムの 2~3 日目で行われた History Taking と Case Presentation では、患者役の学生を英語で問診し、その内容を上級医に報告するというトレーニングを行いました。いざ実践してみると、脳内で鑑別疾患を考慮しつつ患者役の方に質問するという点や、問診で得た情報を取捨選択し、簡潔に英語でまとめて伝えるという点に難しさを感じました。しかし患者役の JABSOM の学生の方や Case Presentation を聞いていただいた先生方から、言い回しや発表のコツについての具体的なアドバイスをいただいたことで、問診と上級医への報告を数日の間によりスムーズにこなすことができるようになりました。

続く 4 日目に行われた PBL では、グループに分かれて与えられた症例についての臨床推論を行いました。シナリオから考えうる疾患を列挙し、次に必要となる情報について考察し、そして追加された検査所見をもとに今後の治療計画を練るという一連の流れは日本での PBL と同様でしたが、自らの意見の主張や所見の解釈を全て英語という第二言語で行うことの難しさを改めて痛感しました。さらに JABSOM では日本の大学とは異なり、入学当初から PBL の形式で医学を学んでいることから、JABSOM の学生の洗練された議論の進め方や、鑑別疾患を挙げる際の情報の整理の仕方に多くの学びを得ました。

上記の内容に加え、私がとりわけ感銘を受けたのが、本プログラムだからこそお目にかかる方々との出会いでした。海外で活躍されている先生方によるスペシャルレクチャーでは、診療科を問わず様々な分野で道を切り拓いて来られた先生方の経験談やご自身の信条について伺うことができ、現状に満足することなく努力を続けることの大切さを改めて感じました。また今回の研修に参加していた医学生の中にも、将来海外で働くことを見据えて USMLE の勉強を始めている人や、年下ながら豊富な医学知識を有し、活発に議論に加わっている人などと話をることができ、大いに刺激を受けるとともに、帰国後も医学英語を学んでいくモチベーションにも繋がりました。

最後になりましたが、本プログラムの開催にあたりご尽力いただきました日米医学医療交流財団の皆様、小玉正智先生、Hawaii Tokai International College の皆様、ご指導いただいた先生方、そして JABSOM の学生の皆様に厚く御礼申し上げます。このような貴重な機会を与えてくださったことに心より感謝し、今後より一層勉学に励んでまいります。